

夏の沢旅 アルプス編～南アルプスの沢～

【報告者】H田

【日時】2019年8月5日

【天候】快晴

【参加者】H田ほか 会員外2名（リーダー、E氏）

《コースタイム》

南アルプス白州 神宮川笹ノ沢

6:40 神宮川ゲート→12:48 水晶ナギ→12:58 雨乞岳分岐→15:18 雨乞岳登山口→神宮川ゲート

《 報 告 》

2日目は、南アルプスの沢。白州と言えば、サントリー白州蒸溜所で作られる白州ウィスキー。そしてサントリー南アルプスの天然水！

今回の沢は、サントリー白州工場の近くが入渓地。つまり、南アルプスの天然水にドボンなのです。前夜から、焚き火しながらハイボールでテンション上げるやつです。ヤバイです。沢に水なんて持っていかなくていいんです。どこでも汲めますもの、南アルプスの天然水が。どうしたって沢の期待も高まります。

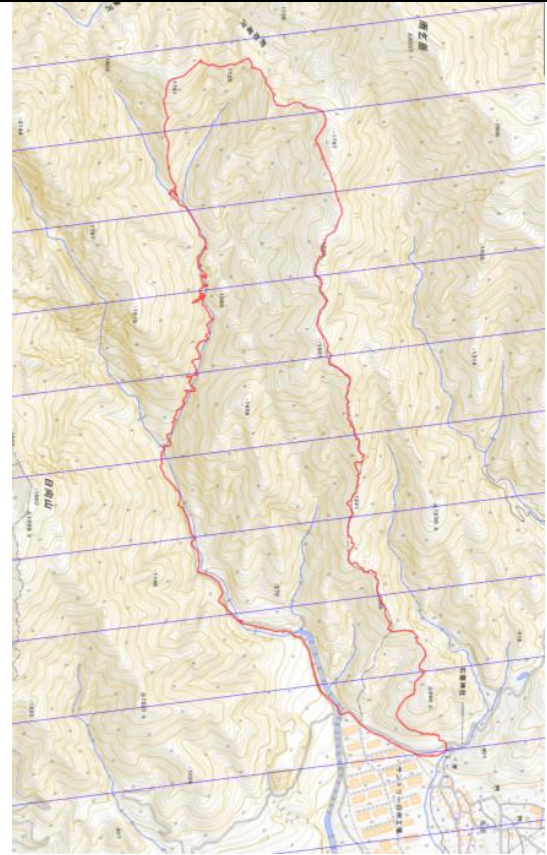
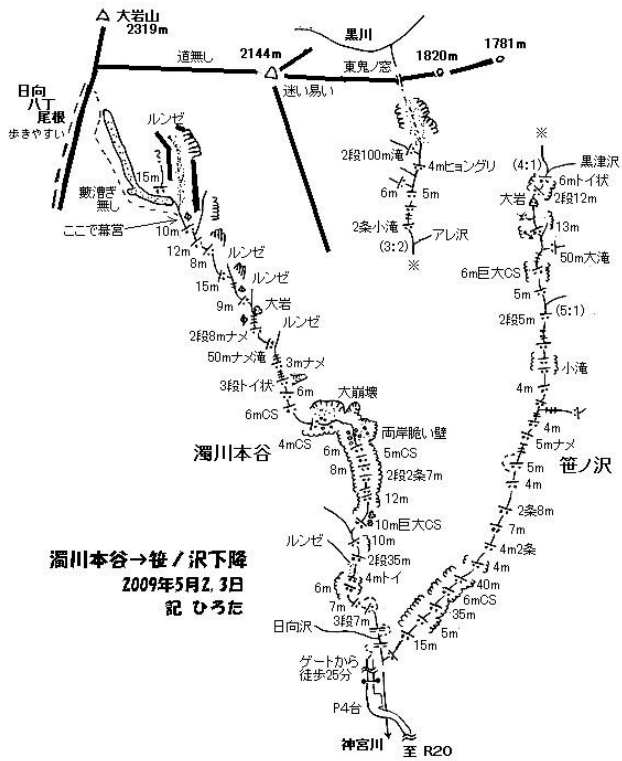
駐車スペースがある林道突き当たりのゲート付近は、河原もあって、キャンプ地として好条件。そこから入渓地点までは比較的近く、20分ほど登山道を歩いて沢の中に見える堰堤の手前に降ります。ここが笹ノ沢出合い。堰堤の向こう側には濁川本谷と日向沢の出合いがあるのでしょうか。同じ場所をベースにすれば日帰りの沢を2～3本楽しむこともできそうです。まずは、左岸側にある15m滝の右手を巻くところからスタートです。

序盤に連続して現れる滝は、昨日の中央アルプスの幸ノ沢と比べると、滝の攻略法という意味で色んなタイプのものがあって面白い。中盤辺りの6m巨大CSは、過去の記録で色んな方がチャレンジしては敗退している。行けそうと見たリーダーが取り付いて、流水手前にハーケンを打ってトライする。流れに頭から突っ込んで突破を試みるも、あまりの流速に敢え無く敗退。記録どおりの結果となりましたが、こんなチャレンジも時には楽しいですね。ここは、ひとつ手前の滝に戻って下降し、右岸を大きく高巻きました。その後左岸壁に50m大滝を眺めた後、巨大な倒木がもたれかかった13m滝は、直瀑でとても登れそうになくて。付近を調べると、斜め45度後方に踏み跡を見つけ、かなり長い大高巻きとなったのです。この沢は、巻きのタイプも色々です。アレ沢と思われる明瞭な二股を左手に進み、しばらく歩いた後、遡行図にもない枝沢があったのか、ルートから少し外れてしまう。戻って遡行を続けるかどうか3人で相談したところ、ここは花崗岩の砂山、遡行図の最終部の崩壊地も恐らく砂地。この先遡行対象となるほどの滝もそんなになさそうだったので、ここで終了とし、歩き易そうな枝尾根を見つけてエスケープしました。

楽しい遡行はここから、長い長い登山へと変貌します。枝尾根から登山道まで上がると、遡行図に迷いやすいとあるとおり、分かりにくい踏み跡を頼りに一度谷を下り、また登り、砂浜のような斜面をズルズル滑らないように耐えながら抜け、水晶ナギ、雨乞岳（山梨百名山のひとつ）分岐を経て、やっと下山道へ。そこからは緩く長い、まるでバリアフリーのスロープのような登山道を延々と降りるのです。前回も感じましたが、下山路が長いのは「南アルプスあるある」なのでしょう。今回の遡行図を拝借させていただいている弘田さんが笹ノ沢を下降に使っているのを見て、好い沢なのにもったいないと思っていたけど、それはきっと、どこかの沢を下降して帰ろうと思うくらい下山路が面白くないと分かっ

ていたからなんでしょうね。もう少し登山道が短かったら、雨乞岳まで登って見たかったです。

【遡行図】



ゲート前



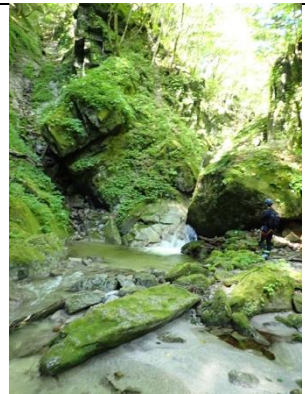
入溪地点



35m 滝



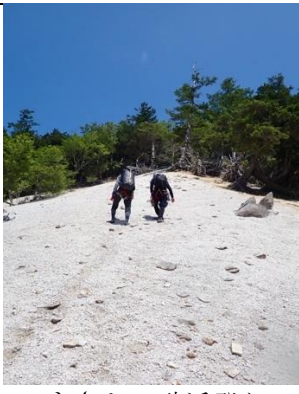
40m 右岸から巻く



6 m 巨大 CS 敗退



直瀑 12m 左岸大巻き



まさかの砂浜登り



水晶ナギ



きのこ and ひっきー